

令和八年度国語問題出題意図等

※【出】は「出題意図」を、【解】は「解答又は解答例」を表す。

一

問一 【出】漢字および語彙の理解力と知識とを問う。読みから文脈にふさわしい語彙を選ぶことができるか、その語彙を適切に漢字で表記できるかどうかを評価する。

【解】1:非難(批難) 2:不整合 3:奮闘 4:留保

問二 【出】文章の意味を理解しているかどうかを問う。

問三 【出】文章の意味を理解しているかどうかを問う。

問四 【出】文章の意味を理解しているかどうかを問う。

問五 【出】論全体を把握したうえで、筆者の意見を把握できているかどうかを問う。

二

問一 文章の意味を理解しているかどうかを問う。

問二 (1)【出】筆者の鑑賞の特徴を理解できているかどうかを問い、わかりやすく文章をまとめる能力がどの程度であるかを見る。

(2)【出】筆者の鑑賞の特徴をふまえたうえで、読者に対する効果を推定できているかどうかを問い、文章をまとめる能力がどの程度であるかを見る。

三

問一 【出】古典の基本的知識をふまえ、現代語訳できるかどうかを問う。

問二 【出】文章の意味を理解しているかどうかを問う。

問三 【出】文章の意味を理解しているかどうかを問う。

問四 ア【出】古典の基本的知識をふまえ、文脈にふさわしい語彙を選ぶことができるかを問う。

イ【出】古典の基本的知識をふまえ、文脈にふさわしい現代語訳ができるかを問う。

ウ【出】古典の基本的知識をふまえ、文章の意味を理解できているかを問う。

四

問一 【出】基本的な漢文訓読の知識を問う。

【解】1:すなはち(すなわち) 2:けだし

問二 【出】訓読の力を問う。

問三 【出】口語訳の力を問う。

問四 【出】文章全体の流れを把握したうえで、結末部を理解できるかどうかを問う。

出典

一 三木那由他『言葉の展望台』

二 長嶋有「精確に寂しい」

三 鴨長明『発心集』

四 楊維禎「贈筆史陸穎貴序」